

幸せの青い鳥はどこに～あなたの欲しかったものは何ですか？

第6回:エピローグ

豊かさとは何か？ 生き生きとした人生とは？ 希望とは？ という問いかけから始まったこのシリーズも終わろうとしている。「いったい、何をめざすのか？(欲しいものは何か?)」という問いは、しかし、それほど簡単に答の出せるものではないし、またその答もたった一つではないだろう。ただ、そうしたことを考える時に、日本における現在の「閉塞感」は将来に夢が持てないことに関係しているし、その対極にあるものが、希望とか充実感、達成感といったものであろう。「閉塞感」は、これまでの「安定成長型」モデルやシステムが崩れたからだが、おそらくこれからは今まで我々がしてきたような、過去のモデルに頼ったり、既成品の物まねをすることだけではやっていけないのではないかと。したがって、これからは「創造性の時代」といってもいいだろう。ただ、それは何もしなくても手に入れられるような簡単なものではなく、そのための努力や技術の習得、訓練が必要である。また、そうしたことを経由(経験)しないかぎり、充実感とか達成感は得られないのではないかと。それが「豊かに生きる」ための一つの必要条件となるだろう。

さて、「豊かさ」についてももう一度考えてみる。「ユニクロ」全盛時代である。安い、品質もそれなりに良い。不況、デフレ下のニッポンの現状にぴったり。ハンバーガーも牛丼も「安さで勝負」の時代である。でも、安ければそれでいいのか？「安さ」の裏側で何かとんでもないことが起こっていないか？ 製造業の「空洞化」も問題であるし、またユニクロに限らず、郊外量販店と地元商店街との競合関係はどうか？ 単に安ければいいのなら、顔見知りの〇〇さんがやっている衣料品店、電気屋さんとか八百屋さん、魚屋さん、薬屋さんもいらない。実際に地方都市の駅前商店街はだんだんさびれてきている。でも商店街があって、そこに住む人、買物に来る人たちがいて、街が成り立ってきていたはず。そういったものすべてを壊して、安さ第一、効率第一でいいのか？ こうした市場経済主義一辺倒の行き着く先は、ほんとうの「豊かさ」とか「潤い」とは対極的な世界ではないのだろうか？

さて、視点を変えて、「組織と個人」について考えてみる。市場経済の中で営利企業としての株式会社は、利益を追求して経済的に「成長」し続けなければいけないのだろう。しかし、お金には換えられないもの、たとえば使命感や充実感、達成感を追求する組織(たとえば NPO)もありうる。そういうことをめざすという意味では、NPOの方が営利企業より近い、あるいは有利と言えるが、その前に、「サラリーマンになる」ということ(「組織」に取り込まれ、「組織」に依存して生きていくこと)の意味を考える必要もある。つまり、NPO なら無条件で充実感や達成感が得られるのか、ということである。無論そうではなく、営利企業であれ、NPO であれ、(その組織内にとどまるかどうかに関わらず)組織に取り込まれることを排して組織からの自立をめざすこと、個人としての生き方を確立して組織に全面依存しない生き方をめざす、といったことは「豊かに生きる」と無関係ではない。充実して生きることができるかどうかは、一人一人の個人の努力にかかっているのである。

「人間に与えられた最大の幸福は希望である。」という言葉があるように、どんなに辛いことがあっても、希望があれば耐えることができる。しかし、「希望」だけでは物事は動いていかない。それを実現させるための原動力となるのは「欲望」だろう。ただ、乱開発による環境破壊や行き過ぎた市場経済化によるひずみ等の例を出すまでもなく、欲望を野放しにすることは危険である。欲望をコントロールすることは難しいが、欲望に方向性をつけようとする努力は必要であろう。そこで求められるものは、おそらくミッションとか使命感といったことがらである。こうした考え方は、「国際耕種」という組織の将来の方向性を考える上でも重要な示唆を与えてくれる。

さて、あなたの欲しいものは何ですか……？